

米軍「マッキャンベル」の入港許可取り消しを求める対県要請 結果報告

鹿児島県平和運動センター

1 と き 2008年1月28日(月)9時30分～10時10分

2 出席者 鹿児島県

土木部港湾空港課：川口博志課長補佐、貴島誠管理係主幹兼係長

企画部企画課：長野信弘課長補佐、松元裕成・主幹

県憲法を守る会：荒川譲会長

県平和運動センター：福永宗郎副議長、山崎博事務局長、今村重喜事務局長

社会民主党鹿児島県連合：南徹郎代表

県議会議員：上村勝行(社民党)、二牟礼正博(無所属)

3 要請事項 (別紙)

4 要請の概要

(1) 寄港を許可した経緯

1月15日に米軍艦船の係留施設許可申請が出されたので、同日、県国際交際課を通じて外務省に「核」搭載有無について照会した。外務省より、「核」持ち込みについての事前協議が行われていないとの報告(電話連絡)を受けたので、1月21日付けで寄港を許可した。

(2) 期間・目的

2月13日(水)午前9時、鹿児島港谷山1区8号岸壁に入港し、2月17日(日)午前9時出港する。寄港目的は、「親善訪問」である。

(3) 要請内容等に対する県の発言内容

問 寄港目的に「乗組員の休養」が無く「親善」だけとのことだが、「マッキャンベル」は「親善」のために具体的にどんなことをするのか？県の対応は？

県 特別の計画は聞いていない。国際交流課が対応しており、従来、艦長等の表敬訪問があったが今回は把握していない。

問 ハルゼーの火災事故隠しについて知事も「米軍には適切に対応してもらいたい」とコメントを出している。従来と異なって、厳しく対応すべきでは。

県 知事のコメントも念頭において対応している。米側は、「事件・事故発生情報の通報基準」に達するものでなかったから通報しなかったと回答している。

問 県民の不安がある。念を入れた対応をすべき。

「通報基準」では事件・事故の例を五つ挙げながらも、「これらに限られない」としている。「親善」の名で寄港しながら火災事故を隠す(しかもその後爆発事故を引起こしている)のは信義にもとる行為だ。同じことを繰り返させないためにも寄港を拒否するとか「通報手続」の見直しを日米両国政府に求めるべきでは。

県 (回答せず)

問 核保有国軍艦の寄港について「原則」はあるか。無ければ、要請を踏まえ作成を。

県 「原則」らしいものはない。定めるかどうかは上司と相談する。

問 下甕島のMD(ミサイル防衛網)施設建設との関連は。

県 建設計画などは把握していない。

問 長崎県は、2月16日長崎港への寄港を求めているイージス艦「ジャイロー」の入港回避を外務省と米に申し求めている。鹿児島県も寄港拒否を要請すべきだ。

県 (回答せず) 要請に対し上司へあげる。知事へもあげる。

最後に荒川会長が、検討するなどとした回答への文書回答を求めたところ、「そうしたい」と答えた。